

 <p>モロやビラーン民族の母子の命を守るパササンバオ助産所の活動。あらたに誕生した命のためにも、ミンダナオには真に公正な政治の実現を、世界には平和が戻ることを願っています。</p>	 <p>2022年4月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL &amp; FAX: 045-500-9151</p> <p>E-mail: hands-mindanao@nifty.com <a href="http://hands-mindanao.a.la9.jp/">http://hands-mindanao.a.la9.jp/</a></p> <p>郵便振替口座 00210-5-72693</p> <p>加入者名：ビラーンの医療と自立を支える会</p> 
---	---	--

## 続・SDGs16「平和と公正をすべてのひとに」 市民・NGO・国際社会に何ができるか

— ロシアによるウクライナ侵攻が続く中で —

2月24日、懸念されていたロシアによるウクライナ侵攻が現実のものとなりました。前号本ページで、SDGsの一つ、平和や公正実現のために何ができるかに触れたばかりですが、日々テレビで流れる戦火の中逃げ惑う市民の姿から、再度このSDGs16をテーマに書かせていただくことになりました。

プーチン大統領率いるロシアによるこの侵略戦争は、本稿を書き始めた3月下旬においても、国連を含む国際社会の各種決議や対ロシア経済制裁も功を奏することなく、戦闘終結はおろか停戦も実現していません。ウクライナ市民の犠牲者、両国の兵士の死がこれ以上増えないこと、また、この109号入稿前に少なくとも停戦が実現し、本ページ書き直しが必要になることを祈りつつ、前号に続き、「平和や公正の実現に何ができるか」を考えてみたいと思います。

まず、私たちが対応したのは、侵略開始1週間後にメールで届いたNGOの全国組織JANICからの呼びかけ「私たちは、同じ時代、同じ世界をともに生きる市民として、平和をとり戻すために努力を続けるウクライナとロシア及び全世界の市民に連帯の意を示します」というメッセージ表明への賛同の署名でした。

また、戦闘終結には直接関与できないまでも、一人でも多くの市民の命を守るためにと、内戦が続く地域など、世界各地で難民支援の実績が豊かなNGOを通じて寄付をさせていただきました。

核兵器使用の可能性さえちらつかせるロシアに対して、

国際社会が手をこまねいているなかで期待されるのは、ロシア国内からのプーチン政権の暴挙を抑える動きですが、この稿を書いている間には影響力ある人物や組織による効果的な働きかけ、アクションを聞くことはできていません。

ロシアの選挙制度が正しく機能し、プーチンの大統領就任が真に民意を反映したものかどうか、不勉強でわかっていませんが、この侵略戦争を止めるものとして、最後に期待したいのはプーチンをリーダーに選んだ市民の気付き、抗議活動です。しかし、これもプロパガンダにより、特にテレビや新聞を唯一の情報源とする高齢世代からの政権批判は期待できないと言われていています。一方で、若い世代には、SNSを通じて、隣国の市民の命を奪っているプーチン政権の侵略行為は伝わっているはずですが、強権政治体制の中での反戦行動は命の危険もあり、容易でないことは理解できますが、新聞・ラジオ・テレビが唯一の情報源だった時代とは異なる今を生きる市民の力にも期待したいと思います。

私たちが関わるフィリピンでも統一選挙が近づいています。大統領選では、1965年から約20年間政権の座にあり、モロ民族との戦闘や弾圧など強権的独裁的政治をおこなったマルコス大統領の息子の独走が伝えられています。一方、地方では多額のお金が動くともいわれています。私たちが関わる先住民族の青年たちも、スマホのSNS情報を賢明に活用し、平和で公正な社会実現に働く候補者の情報を親世代にも伝え、選出してほしいと思います。

(山崎)